

研究計画書の書き方

川口大司
2004年3月19日

研究計画の書き方について質問をいただいたので、その書き方を大まかにまとめました。ひとつの考え方として参考にしてください。

1. どのような経済問題や経済現象に関心があるか？その経済問題や経済現象を新聞記事、統計などを用いて記述してください。ここで、経済問題・現象といったときに狭く考える必要はまったくありません。私はすべての人間行動、社会現象は経済的な側面を持っていると考えています。また、経済学はその分析対象によって規定される学問分野ではなく、個人の最適化行動を基礎に社会現象全般を分析しようという方法論によって規定される学問分野だと思っています。
2. その経済問題や経済現象に関して既存の研究、理論、「世論」はどのような説明をしているのか？その説明はどのようにサポートされているか？また、解決策としてどのような対策が提案されているのか？
3. あなたはそれらの既存の研究、理論、「世論」をどのように評価するのか？批判的に検討してください。
4. 既存の説明の批判を踏まえて、あなたはどのような仮説で現象・問題を説明しようとするのか考えてください。あるいは既存の説明を留保つきで受け入れるという選択もありえます。
5. あなた自身の仮説を踏まえて、その仮説が正しいとするとどのような現象が観察されるかを予測してください。その予測をどのように統計的に検定するのか述べてください。
6. 統計的検定を行うに当たって用いるデータを説明してください。
7. 統計的検定の結果を報告してください。（この部分は計画書の段階では空白になります。ただし統計分析を行う際にどのような問題が発生しえてそれに対してどのような対策をしていくのかを書いておくのは役に立ちます。）
8. 結論を導いてください。必要ならば結論に基づいて問題解決への方策を提案してください。（この部分も計画書の段階では空白になります。）

例： 以下の例はシカゴ大学のLevittたちがAmerican Economic Reviewに載せた相撲における八百長の研究を参考にしています。

1. 相撲には八百長があるといわれている。（週刊ポストの過去の記事）
2. 相撲部屋の「封建制」が八百長の原因である。これに関しては引退力士の証言などより明らかである。八百長撲滅のためには相撲部屋の「民主化」が欠かせない。
3. 以上のような「文化」的な説明は何も説明していないに等しい。何もわかった気がしない。引退力士の証言は個人的な恨みなどのバイアスがかかっている可能性がある。八百長発生の根本的なメカニズムがわからないので対策もよくわからない。
4. 経済学的分析を導入する。まず力士のインセンティブを考える。相撲の成績評価においては「勝ち越し」をするかしないかがクリティカルな差をもたらす。9勝8敗と8勝7敗はあまり変わらないが、8勝7敗と7勝8敗ではその後の昇進、降格に大きな差が出る。よって、最終日（15日目）の取り組みにおいて7勝7敗の力士が追加的に得る1勝の価値は何にもかえがたいものである。一方、最終日までに勝ち越しあるいは負け越しが決まっている力士が追加的に得る1勝の価値は小さい。ここで、重要な点はある力士が次の場所でまた同じ力士と対戦する可能性があるということだ。つまり貸し借りをを行う余地が発生する。よって、負け越し、あるいは勝ち越しが決まっている力士は7勝7敗で最終日に臨む力士にわざと負けてやることによって「貸し」を作り、将来、自分にとって大切な場面で「貸し」を返してもらうという行動をとるインセンティブが発生する。ここでさらに興味深いのはこれらの行動が密談の結果とられるとは限らず「暗黙の了解」に基づいて行われる可能性があることだ。
5. 8勝7敗の力士は7勝8敗の力士に比べて有意に多いはずである。あるいは7勝7敗で最終日に臨む力士は実力以上の成績を上げているはずである。
6. 過去の相撲の取り組み結果表を入手。
7. 8勝7敗の力士は7勝8敗の力士に比べて有意に多い。また7勝7敗で最終日に臨む力士は実力以上の成績を上げている。（7勝7敗の力士が最終日にやる気を出すため、実力以上の成績を上げる。という別の仮説に対する反論については原論文を参照のこと。）
8. 相撲において八百長が存在しないという帰無仮説は棄却される。八百長が発生する根本的な原因は「勝ち越し」を極度に重視する昇進、降格決定のインセンテ

イブ・メカニズムにある。よって、八百長を撲滅するためには勝ち越しを極度に重視するメカニズムを考え直す必要がある。もっとも、長年にわたってこのようなシステムがとられてきたということは、このようなことも含めてやり取りを楽しんでいる相撲ファンが存在することを示しているのかもしれない。

以上ですが、これをすべて4月6日までに行うのは不可能だというのは了解しています。やれるところまでやってみてください。上記の例は「ソフト」な問題の例ですが、もちろんもっとハードな経済に関する問題でもかまいません。重要なのはアタックしてみようとしている問題が1. あなたにとって本当に興味深い問題かどうかということと2. その問題にうまく解答を与えることができるかに関して見通しがどの程度つくかということ、2つのバランスです。

ちなみに、昨年の卒論生が取り組んだテーマは

1. 外国からの直接投資が中国の経済成長を牽引しているというのは本当か？
 2. アジア経済危機が農村の住民に甚大な被害を与えたというのは本当か？
- です。加えて山田先生のゼミ生が
3. 学校卒業後にフリーターになると、30歳代になったときに何の技能も身につけていないので、ひどいことになる。というのは本当か？
- というテーマに取り組んでいて私も助言させてもらいました。

どの論文も興味深い問題を分析しましたが、成否を分けたのは分析のfeasibility に関する見通しと、それに関連してどれだけ上手に時間配分をできたかだと思います。また論文は「読んでもらう」ために書くものであり、読み手にとって親切なものでなければなりません。論文の書き方については多くの良書が出ているのでそれに譲りますが、読者に対する気配りも論文の成否を分けるポイントになります。